

6 3 6 1 - 1 1 4 6
平成 2 1 年 8 月 2 7 日

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センタ - 所長

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を公表したので送付します。

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名：アワダチソウグンバイ (*Corythucha marmorata*(uhler))
- 2 作物名：キク科作物 (キク、ヒマワリ等)、サツマイモ、ナス
- 3 発生確認の経過
本年 7 月、宮崎市においてヒマワリの葉を食害するグンバイムシが発生しているのが確認され、その後、南那珂地域、児湯地域等でも同虫の発生が認められた。
門司植物防疫所に同定を依頼したところ「アワダチソウグンバイ」であることが確認された。本県での本種の発生確認は初である。
本種は北米原産の侵入害虫で、国内では平成 12 年に兵庫県で初確認され、平成 17 年頃から急速に分布を拡大し、九州では平成 19 年に佐賀県、熊本県、平成 20 年に長崎県、平成 21 年に鹿児島県で発生が確認されている。
- 4 特徴
成虫の体長は約 3 mm で、背面からの外観は相撲の行司が使う軍配に似た形状をしている。前翅は半透明で、褐色の斑紋と周縁部には小棘が列生している。幼虫は褐色から黒褐色の紡錘形で、葉裏などに密生している。
成虫は 5 月～10 月頃まで寄主植物を加害し、セイタカアワダチソウで越冬する。成虫発生のピークは 7～8 月である。
- 5 寄主
これまで国内では、下記の植物への寄生・加害が確認されている。
キク科作物：キク、ヒマワリ、ノコンギク、シオン、ヒャクニチソウ、
 ユリオブスデージー、キクイモ、食用ギク
キク科雑草：セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオブタクサ、オオアレチノギク、
 オオオナモミ、ヨモギ、ヒメムカシヨモギ、ヨメナ
ヒルガオ科：サツマイモ
ナス科：ナス
- 6 被害状況
寄主植物の葉裏面に寄生し、吸汁加害する。被害葉は、ハダニによる吸汁被害と酷似した白いかすり状の斑点を生じ、さらに進行すると被害葉は白化または黄化し、やがて枯死する。また、葉裏面には排泄物によるすす状の汚れを生じる。
- 7 防除対策
ほ場周辺のセイタカアワダチソウ等のキク科雑草は、発生源となるので除草を徹底する。
登録のある農薬により、発生初期に防除する。



アワダチソウゲンバイ成虫



アワダチソウゲンバイ幼虫



セイトカアワダチソウ被害葉



葉裏のすす状の汚れ

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>